

令和7年度 一般財団法人 新潟県建設技術センター研究助成事業

小学校との連携による柏崎地域の無人駅における

魅力の顕在化とリノベーション

活動報告書

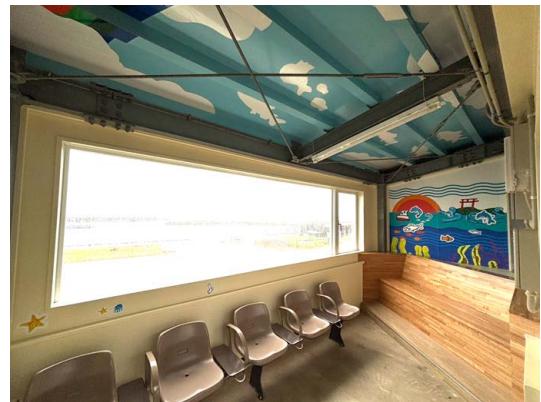
代表研究者：倉知 徹（新潟工科大学）

研究構成員：水戸部 智（特定非営利活動法人 aisa）

研究構成員：嶋田 純一（柏崎市立米山小学校）



(a)リノベーション前

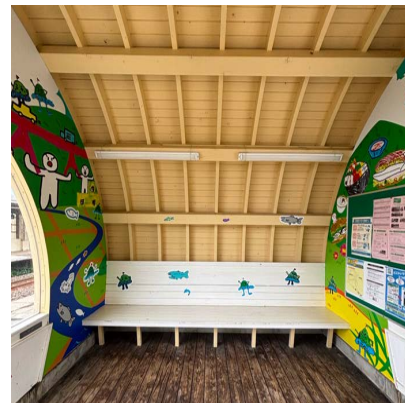


(b)リノベーション後

図1 JR 笠島駅海側待合室のリノベーション



(a)リノベーション前



(b)リノベーション後

図2 JR 笠島駅山側待合室のリノベーション

令和8年3月

1. はじめに

1.1 プロジェクトの概要

柏崎・刈羽地域には JR 東日本の鉄道駅が 17 駅あり、そのうち 16 駅が無人駅となっている。かつては駅に駅員がおり、切符販売や改札業務等をし駅が維持管理されていた。しかし、無人駅となり日常的な維持管理が最小限にとどまるようになってきている。そのような中、駅周辺地域の地域住民等による駅の維持管理の分担が考えられ、それには地域住民等の駅に対する愛着の醸成が必要となる。しかし柏崎地域の日常生活の移動は、自家用車に依存しており、鉄道を利用する機会はほとんどないのが実態である。したがって、地域住民による無人駅への意識向上と愛着醸成には、これまでとは異なる方法が必要になると考えられる。そこで、地域住民の無人駅への意識向上と愛着醸成のきっかけとして、小学校・小学生による無人駅の魅力の顕在化と、それを表現するリノベーションが必要であると言える。

本事業では、地域社会の要となっている小学校と小学生が主体となり無人駅の魅力を顕在化させ、それを表現するリノベーションをすることで、地域住民の関心を喚起し、意識向上と愛着醸成が可能になると考えた。また、令和 5 年度に越後線石地駅で、地元内郷小学校と連携し駅舎のリノベーションを実施し、地域住民に大きな関心を持っていただいた。

令和 7 年度は、柏崎市立米山小学校と協働し小学校区内の JR 東日本信越本線の笠島駅を対象とし、小学生が主体となったリノベーションを実施した。そして、2025 年 10 月 25 日に、笠島駅がリノベーションされ、リニューアルオープニングセレモニーが開催された。リノベーションの内容は下記の 4 点である。

1. 海側待合室の窓 (図 1(b))
2. 海側待合室のベンチ (図 1(b))
3. 海側待合室のラッピング (図 1(b))
4. 山側待合室のラッピング (図 2(b))

この取り組みは、新潟工科大学（以下、本学とする）と柏崎市立米山小学校（以下米山小とする）、JR 東日本新潟支社（以下、JR 東とする）、特定非営利活動法人 aisa（以下、NPOaisa とする）、株式会社不二美術印刷（以下、不二美とする）の五者の協働で実施した。

リノベーションは、2020 年度の卒業設計（藤本大賀作品「そのとき、そこにて、おもうー柏崎地域 15 無人駅再構築の提案-」¹⁾）のコンセプトを骨格とし、米山小児童によるアイデアを取り入れた内容とした。

本稿は、笠島駅のリノベーションが実施される過程を整理し、その成果を考察し報告する。

1.2 取り組みスケジュール

この取り組みの経過について、越後線石地駅リノベーション完了から、信越本線笠島駅リノベーション完了まで、大きく 5 つの段階に分けて表 1 に示す。

表 1 取り組みスケジュール

日程	取り組み項目	内容	ステップ
2023年	11月10日	越後線石地駅オープニングセレモニー	ステップ0
2024年	7月4日	本学とNPOaisaで連携協定締結	ステップ1
	10月8日	柏崎市立小学校校長会で説明	
	10月31日	米山小と打ち合わせ	
	11月14日	米山小と打ち合わせ	
	11月27日	JR東と打ち合わせ	
	12月4日	米山小と打ち合わせ	
	12月26日	米山小と打ち合わせ	
	2025年	1月8日	
1月15日	米山小 3無人駅見学		
2月7日	米山小ワークショップ01	ステップ3	
2月20日	米山小ワークショップ02		
3月5日	米山小ワークショップ03		
4月4日	JR東と打ち合わせ		
4月15日	米山小 JR東による出前授業		
4月21日	JR東と打ち合わせ		
4月23日	米山小ワークショップ04		
5月8日	米山小ワークショップ05		
5月15日	米山小ワークショップ06		
5月22日	米山小ワークショップ07		
6月9日	柏崎市教育委員会教育総務課と打ち合わせ	ステップ3	
6月23日	JR東と打ち合わせ		
7月17日	全者打ち合わせ		
9月4日	米山小ワークショップ08		
9月18日	米山小ワークショップ09		
9月25日	プレスリリース		
10月14日	米山小ワークショップ-3駅清掃		
10月16日	米山小ワークショップ-児童によるラッピング作業		
10月25日	信越本線笠島駅リニューアルオープニングセレモニー		

ステップ0は、越後線石地駅リノベーションが完了し、そのオープニングセレモニーから米山小との協働体制をつくる時期である。R6年度に、本学とNPOaisaが連携協定を締結し、その後柏崎市立小学校の校長会で2つ目の無人駅のリノベーションプロジェクトに向けた説明を実施、参加小学校を募集した。その結果、柏崎市立米山小学校と協働し実施することとなった。どのような目標に向かって、どのような体制で実施するのか確認をし、小学校区内の3駅（米山駅、笠島駅、青海川駅）を対象とした。

ステップ1は、米山小の全校児童12名（2024年度在籍児童）が無人駅のリノベーションに取り組み始め、リノベーションの検討を開始する時期である。小学校区の3駅を見学し、リノベーションに向けたアイデアを出した。

ステップ2は、2025年度になり米山小の全校児童9名が新たに無人駅のリノベーションに取り組み、リノベーションの内容を決める時期である。また、この時期に対象の駅を笠島駅1つに絞り込んだ。

ステップ3は、リノベーションの内容が決まり、施工等をし、オープニングセレモニーを開催する時期である。

2. ステップ0：プロジェクト準備

2.1 越後線石地駅のリノベーション

2023年11月10日に、JR越後線石地駅リノベーションプロジェクトのオープニングセレモニーが開催された。2020年度の卒業設計を契機とし、柏崎市立内郷小学校、JR東日本新潟支社、新潟工科大学の三者連携で石地駅のリノベーションを実施し、5点の成果を達成できた。

2.2 特定非営利活動法人 aisa と新潟工科大学の連携協定締結

2024年7月4日に、NP0aisaと本学の間で、連携協定が締結された。この連携協定は、柏崎地域のまちづくり事業実施を謳っており、本稿の無人駅リノベーションのプロジェクトを遂行することも目的としたものである。

2.3 柏崎市立小学校校長会での説明

2024年10月8日に、柏崎市立小学校校長会に本学が参加し、JR無人駅プロジェクトの説明と、プロジェクトへの参加を希望する小学校の募集を実施した。参加した柏崎市内の小学校長20名に対し、越後線石地駅リノベーションプロジェクトの成果と、新たなプロジェクト実施に向けた体制やスケジュール案を説明し、参加希望小学校を募集した。その結果、米山小学校から参加の申し出をもらった。

2.4 プロジェクト開始に向けた打ち合わせ

2024年10月31日に、米山小と本学のプロジェクト開始に向けた打ち合わせを実施した。この打ち合わせでは2025年度の米山小学校の予定やリノベーション実施のための資金、対象とする無人駅、取り組みのスケジュールについて協議がされた。

2025年度の米山小学校の予定では、150周年を迎えることと2025年度末で閉校が決まっている点から、150周年と閉校記念の行事として実施したいとのことであった。リノベーション実施のための資金では、主にクラウドファンディングを検討している点や150周年記念事業の実行委員会が集めている寄付金の活用等が協議された。対象とする無人駅としては、米山小の学区に米山駅、笠島駅、青海川駅の3つの無人駅があることから、可能なら3駅全てで取り組みたいとなり、リノベーションの内容も写真展のような簡単なものから、石地駅リノベーションのようなしっかりしたものまで「幅」があることが確認された。取り組みのスケジュールでは、2025年度から始めるのではなく、2024年度の3学期（1月）から開始することとした。

また、児童への授業の冒頭で、JR東による出前授業が必要であることから、JR東へ依頼することとした。そして、授業開始まで2週間程度に1度打ち合わせを重ねていくこととした。

2.5 JR東との調整

2024年11月27日に、JR東とオンラインで打ち合わせを実施した。米山小と協働し、無人駅のリノベーションプロジェクトが開始した点や対象の駅を3駅としたい点、JR東による出前授業を依頼したい点等の協議をした。JR東としても、米山小との協働を好意的に受け止めてもらい、実際の無人駅リノベーションに向けて進めていけることを確認した。

2.6 無人駅リノベーションに向けた方針

2024年12月26日に、米山小と打ち合わせを実施し、無人駅リノベーションに向けた方針やスケジュールを確認した。

総合的な学習の時間を使い、2024年度1月から授業を開始する点、児童が2025年度末の閉校に合わせて関係者への感謝の気持ちを表し、学校の150年の歴史を振り返り、今後の決意を持つようにすることを狙いとした。

スケジュールでは、1月から授業を開始し、これまでの学習から繋げて鉄道や無人駅に対して興味を持ってもらい、無人駅の見学に行ってから無人駅リノベーションに向けたワークショップをすることとした。ワークショップは2月から3回程度開催することとした。このワークショップはNPOaisaの中島遼氏のファシリテーションで進行することとなった。

3. ステップ1：リノベーション検討開始

3.1 米山小でのワークショップ2024

2025年1月15日に、米山小児童がリノベーションの対象とする3駅（米山駅、笠島駅、青海川駅）の見学をし、無人駅リノベーションに向けた取り組みを開始した。

2025年2月7日に、無人駅リノベーションに向けた第1回ワークショップを実施した。ワークショップは、米山小の全校児童12名が参加して進められた。3駅の見学を振り返り、児童自身が楽しいリノベーションを考えるだけでなく、誰かのためや何かのためになる目的があることを知ることを目的とした。各駅の良かったところ、面白かったところ、魅力、逆に悪かったところや寂しいところ、課題をふせんに書き出してもらった。

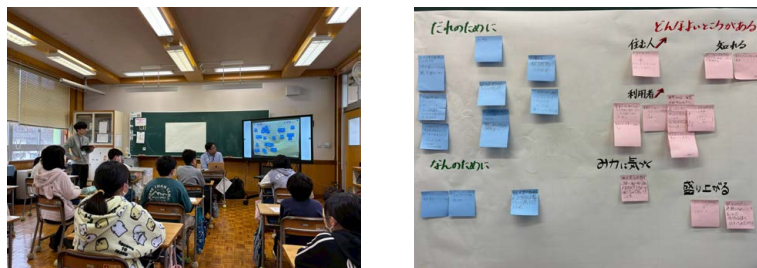
2025年2月20日に、第2回ワークショップを実施した（図3）。第1回ワークショップを振り返りつつ、リノベーションのアイデアをたくさん出すことを目的とした。特に、駅や駅周辺の問題も捉えて実現できる良いことを考えて、各駅のリノベーションの目的と方向性を決めた。



(a)全体説明 (b)児童による付箋書き出し (c)出されたアイデア

図3 第2回ワークショップの様子

2025年3月5日に、第3回ワークショップを実施した（図4）。第2回までのワークショップで出たアイデアを元に、アイデアを収束しつつ、リノベーションを行うと実現できる良いことを考えて発表することを目的とした。グループワークとし、各グループでアイデアをひとつにまとめ、各グループからアイデアを発表してもらった。そして、アイデアを実際に実現したら、駅や駅周辺にどんな良いことがあるのか考えてもらった。



(a)全体説明 (b)出されたアイデア

図4 第3回ワークショップの様子

3.2 2024年度の取り組みの成果

2024年度は、2025年度に実施する無人駅リノベーションの準備段階として米山小でのワークシ

ョップを実施した。卒業する6年生児童が6名おり、彼らはリノベーションの実施まで関わることはできないが、JR 無人駅をリノベーションする端緒に関わることができた。2025 年度以降は、5 年生が新6 年生となり全校児童を率いてくれる体制を作ることもできた。

4. ステップ2：リノベーション内容決定

4.1 無人駅リノベーションの実現に向けた協議

2025 年4 月4 日に、JR 東と打ち合わせを実施した。ここまで、米山小の学校区にある3 駅を検討してきたが、その実現可能性について協議をした。JR 東による駅舎の中期的なメンテナンススケジュールの可能性があること、3 駅の中でも中心の駅である「笠島駅」の待合室において、児童のアイデアを表現することで、前述した問題点の解決につながると考えた。以上より、本プロジェクトでの対象駅を「笠島駅」の1 駅とすることとした。

また、児童のアイデアを笠島駅に実現する手法として、児童が描いたイラストなどを駅舎壁面にラッピングの形式で掲出することとした。駅舎自体を建築的に改変する必要がないことと、児童が描いたイラストなどを、ほぼそのまま掲出することができ、児童の参加した証を明確に示すことができるためである。

4.2 米山小でのワークショップ 2025 前半

2025 年度になり、新たな米山小メンバーで無人駅のリノベーションに向けた取り組みを開始した。全校児童9 名のうち、4～6 年生6 名を中心に取り組むこととなった。

2025 年4 月15 日に、JR 東による出前授業を実施した(図5)。電車が走る仕組みや、鉄道の信号の仕組み等を学び、踏切の非常停止ボタンを押す体験をした。



図5 JR 東による出前授業の様子

2025 年4 月23 日に、第4 回ワークショップを開催した(図6)。4～6 年生6 名に対し、対象とする駅が笠島駅1 駅になった点を伝え、その笠島駅に3 駅と周辺のまちの魅力を集約して進められる可能性について投げかけることとした。JR 東による出前授業の内容も振り返りつつ、笠島駅で実現させたいアイデアを検討した。



(a)全体説明

(b)検討する児童の様子

(c)出されたアイデア

図6 第4 回ワークショップの様子

2025 年5 月8 日に、第5 回ワークショップを開催した(図7)。前回のワークショップを振り

返り、実現したいアイデアを設計図として作っていくことを目的とした。駅の待合室の写真を印刷したプリントに、思い切ってアイデアを書き込んでいき、失敗しても良い設計図を描くこととした。



(a)全体説明 (b)検討する児童の様子 (c)作業する児童の様子

図7 第5回ワークショップの様子

2025年5月15日に、第6回ワークショップを開催した(図8)。前回のワークショップでは、失敗しても良い設計図を描いており、待合室の写真をA1用紙サイズで印刷したものを下敷きに、精度を上げて描くことを目的とした。また、縮尺1/10の待合室の模型も用いて、アイデアの実現を立体的にもとらえながら実施した。第6回では山側待合室を対象に、児童が思い思いのイラストを描いていった。



(a)模型を見て検討する児童 (b)作業する児童の様子 (c)模型で検討する児童

図8 第6回ワークショップの様子

2025年5月22日に、第7回ワークショップを開催した(図9)。第6回では山側待合室を対象としたので、第7回では海側待合室を対象に、児童が思い思いのイラストを描いていった。



(a)作業する児童の様子 (b)児童の作業後の模型 (c)全体の振り返り

図9 第7回ワークショップの様子

4.3 米山小でのワークショップ2025の成果

2025年度の5回のワークショップを通して児童が描いたイラストを図10、図11に示す。笠島駅は、海や漁港に近く、夕陽が綺麗に見えるため、海の様子や魚、たまに見ることができるイルカ、漁港で獲れる海産物、弁天岩と夕日を描いた。また、笠島駅周辺の様子や学校のイラストも描かれていた。そして、隣の駅である米山駅や青海川駅のことや、米山小学校区内の名所である米山大橋やお弁が滝なども描かれていた。駅を利用する人、特に観光等で訪れる人に対し、地域

のことを知ってほしいという思いや、地域の人が思う地域ならではの魅力を、児童の目線で描いてくれたと考えられる。

これら児童が描いたイラストを元に、海側と山側の待合室の壁面に合う様に、不二美のデザイナーによって調整することとした。



図 10 海側待合室へのラッピング提案

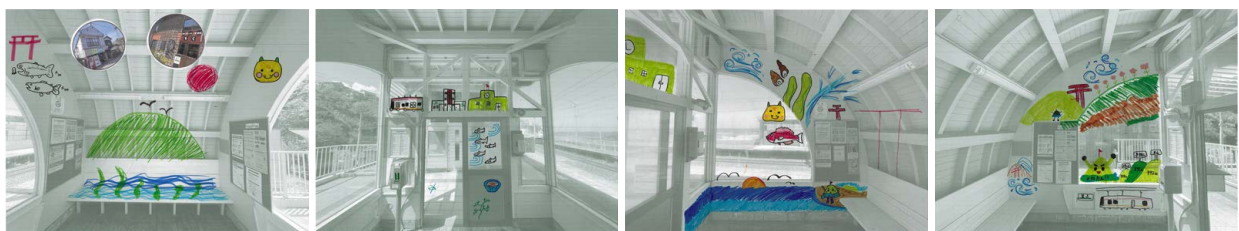


図 11 山側待合室へのラッピング提案

5. ステップ 4：JR 信越本線笠島駅リノベーションの施工とお披露目

5.1 JR 信越本線笠島駅リノベーションに向けた最終確認

2025 年 7 月 17 日に、プロジェクト関係者の全員が集まり、笠島駅リノベーションに向けた打ち合わせを実施した。この打ち合わせでは、主に施工やお披露目までのスケジュール、駅舎ラッピングの方向性、海側待合室に卒業設計コンセプトを実現する窓とベンチの設置、費用負担、リノベーション後の管理について協議された。特にスケジュールでは、児童が描いたイラストのラッピング作業の一部を児童自身で実施する案や、駅舎の清掃活動が盛り込まれた。窓及びベンチの費用負担については、JR 東 新潟建築設備技術センターの予算活用に向けた所内コンペにて本プロジェクトの提案を行い、実現性と付加価値の高さを評価され、採択に至ったことで担保した。本プロジェクトの契機となった卒業設計の一部を実現することとなった。卒業設計での笠島駅での提案は、既存の海側待合室のさらに海側に、海や漁港を眺められる「ヒミツの待合室」を作るものであった。この提案を基に、海や漁港をゆっくり眺められる様に、既存の窓を大きくし、海に向かって座ることができるベンチを設置することとなった（図 12）。



(a)大きな窓への改修

(b)設置されるベンチ

図 12 笠島駅海側待合室の窓改修・ベンチ設置案

5.2 米山小でのワークショップ 2025 後半

2025 年 9 月 4 日に、米山小で第 8 回ワークショップを開催した（図 13）。10 月の学習発表会

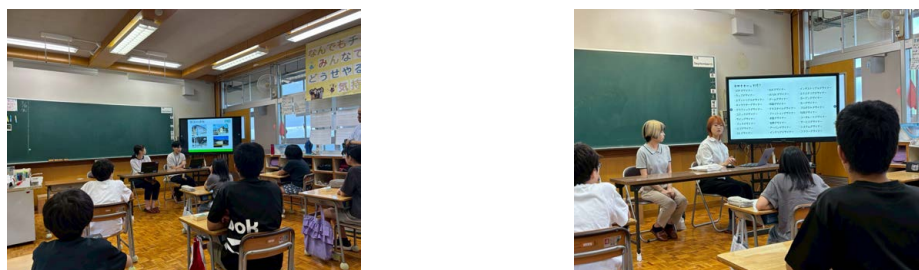
でリノベーションのお披露目ができることや、児童自身で描いたイラストのラッピング作業の一部を実施することを伝え、誰だってやりたいことができるという自信と主体性に気づいてもらうことを目的とした。



(a)全体説明 (b)児童のアイデア出し (c)出されたアイデア

図13 第8回ワークショップの様子

2025年9月18日に、第9回ワークショップを開催した(図14)。第9回ワークショップでは、本プロジェクトで駅舎の工事等を担当するJR東の建築設備技術センターの仕事内容の紹介と、児童が描いたイラストを調整し待合室全体のラッピングデザインを担当した不二美のデザイナーからデザインの仕事の紹介がされた。本プロジェクトを通じ、無人駅のリノベーションには様々な職種の人がかかわっていることと、その仕事の内容を知ってもらうことを目的とした。



(a)JR東による仕事紹介 (b)デザイナーによる仕事紹介

図14 第9回ワークショップの様子

5.3 米山小による無人3駅の清掃とラッピング作業

2025年10月14日に、米山小全児童と関係者による3無人駅の清掃活動を実施した(図15)。JR東の社員による安全確保の中、児童が駅舎内外の清掃を実施した。駅のリノベーションを検討した際に、地域にとっての駅の存在を考えたため、その駅を自らの手で清掃し、以降も愛着を持ってもらえることを目的とした。



(a)米山駅での清掃活動 (b)笠島駅での清掃活動 (c)青海川駅での清掃活動

図15 無人3駅の清掃活動の様子

2025年10月16日に、米山小全児童による一部のラッピング作業を実施した(図16)。待合室の内壁のラッピングの下地の作業が終了しており、その上に児童が描いた魚などのイラストをシールにしたものを、児童の手で好きな場所に貼付する作業である。壁面に設置された海や夕陽の

イラストの上の好きな場所に次々とシールを貼付していった。



(a)シールを貼ろうとする児童 (b)シール位置を確認する児童 (c)児童シルエットを見る児童

図 16 笠島駅ラッピング作業の様子

5.4 JR 信越本線笠島駅リニューアルオープニングセレモニー

2025年10月25日に、本プロジェクトのお披露目となる笠島駅リニューアルオープニングセレモニーを開催した(図17)。当日は、午前米山小を会場に学習発表会が開催され、午後笠島駅を会場にリニューアルオープニングセレモニーを開催した。関係者を含め100名以上が参加し、児童代表等による挨拶の後、リノベーションしたラッピング等の除幕も行われた。参加した保護者や地域の関係者、本プロジェクト関係者の笑顔に囲まれ、児童にとっても記憶に残るものとなったと考えられる。



(a)児童代表の挨拶 (b)児童全員の記念撮影 (c)山側待合室の除幕

図 17 笠島駅リニューアルオープニングセレモニーの様子

6. 取り組みの成果

本プロジェクトでは、本学とJR東、米山小、NP0aisa、不二美の五者の協働によって、信越本線笠島駅のリノベーションを実施できた。実施したリノベーションの内容は海側待合室の窓、海側待合室のベンチ、海側待合室のイラストラッピング、山側待合室のイラストラッピングの4種類である(図1、2)。イラストラッピングは、児童が描いたイラストを元に、待合室の内壁全体を埋める大きなものとなったが、それに加えて児童自身によるシール状イラストの貼付がされ、児童の直接の関与を感じさせるものとなった。また海側待合室の改修された窓とベンチの設置は、卒業設計のコンセプトを具現化したものとなり、今後訪れる人にも笠島駅の魅力を伝えるものとなった。

本プロジェクトにおいても越後線石地駅に続き、無人駅リノベーションを伝える作品紹介プレートが設置された(図18)。これは、無人駅のリノベーションの趣旨を伝えるプレートであり、卒業設計のタイトルを参考とし「そのとき、ここにて、おもう」として紹介されている。また、個々の作品にno.をつけているが、越後線石地駅の作品no.を001~004として、信越本線笠島駅ではno.005~008とし、無人駅リノベーションとして通し番号としている。

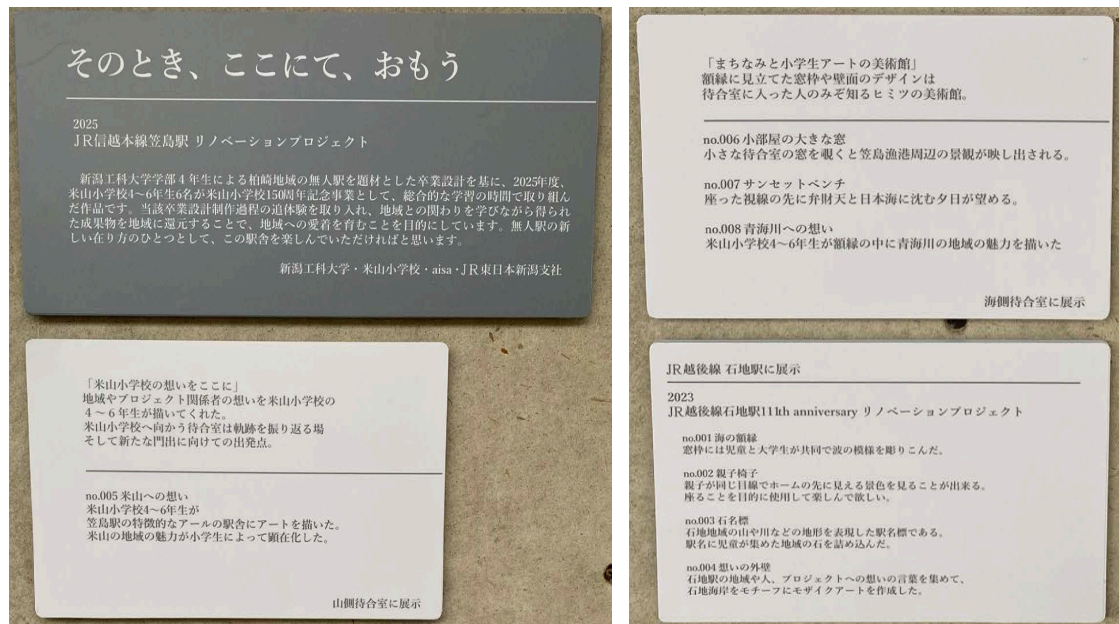


図 18 JR 無人駅リノベーションの作品プレート

以上のことから、本プロジェクトの成果としても下記の4点が挙げられる。

一つ目は、本学の卒業設計を契機に JR 東の2つ目の無人駅のリノベーションが実現した点である。取り組みとしては大きくないが、継続できた点に意義があると考えられる。

二つ目は、本学と JR 東、米山小、NP0aisa、不二美の五者連携の体制を構築できた点である。越後線石地駅の際には三者の連携であったが、本プロジェクトでは五者と参加主体が増えたことにも意義があると考えられる。

三つ目は、越後線石地駅の際と同様に、卒業設計の提案に米山小児童の思いを加えた制作ができた点である。特に本プロジェクトでは、参加児童の思いを大きく引き出し、児童の参加の証をしっかりと作り上げることができ、米山小校区と笠島駅の魅力を顕在化できた点に特徴があると言える。

四つ目は、信越本線笠島駅の地域住民の関心を集められた点である。米山小児童のアイデアが具現化したことと閉校記念となったことも相まって、保護者のみならず地域住民の関心を集め、多くの人がオープニングセレモニーに参加した点に意義があると考えられる。地域住民の笠島駅に対する意識の向上と愛着醸成に繋がったと考えられる。

補注

- 1) 卒業設計の内容については文献[1]に詳しい。
- 2) JR 越後線石地駅のリノベーションのきっかけから経緯、成果については文献[2]に詳しい。

参考文献

- [1] 藤本大賀, 倉知 徹: そのとき、ここにて、おもうー柏崎地域 15 無人駅再構築の提案ー; 日本建築学会北陸支部研究報告集 64, 258-261, 2021-07.
- [2] 倉知 徹, 高橋 亮太, 小関 優生, 藤本 大賀: 卒業設計を契機とした JR 無人駅のリノベーション: JR 越後線石地駅の場合; 新潟工科大学研究紀要第 28 号, <https://niit.repo.nii.ac.jp/records/2000138>, pp. 13-42, 2023.